

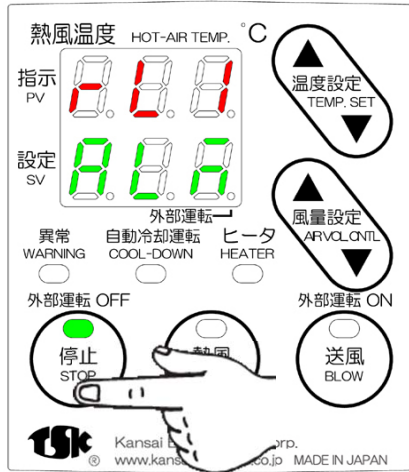
# 1. 出力モード変更

便利な機能

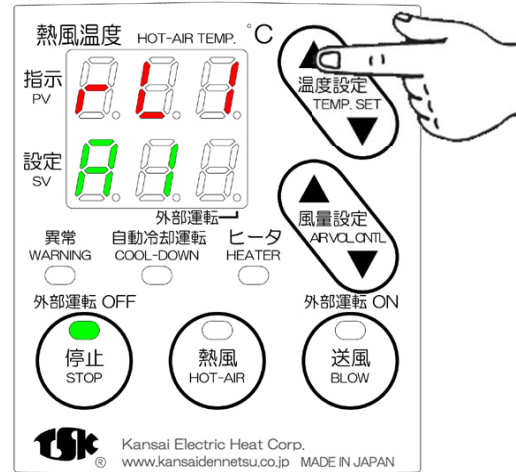
サービス端子の出力端子から出力されるモードを「異常」から「温度警報」に変更することができます。「温度警報」に変更した場合、設定温度に対して吐出熱風温度が任意の一定範囲を超えた場合、警報信号が出力されます。

- ① 停止状態にて、停止スイッチを約3秒間押し続けてください。

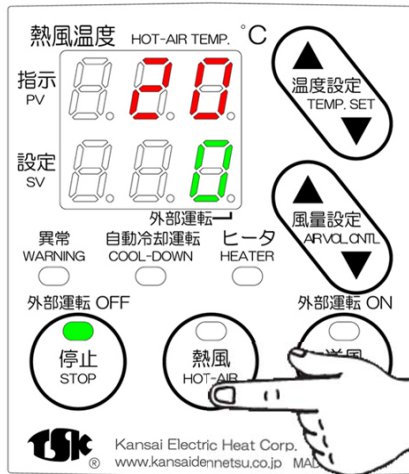
熱風温度指示PV部に『RL1』、設定SV部に『ALM』が表示します。



- ② 温度設定アップキーにて『ALM』を『A1』に変更してください。



- ③ 熱風スイッチを4回押して、通常停止状態へ戻してください。



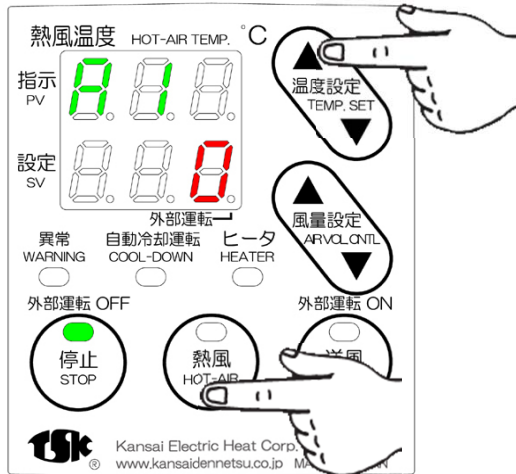
## 2. 温度警報を設定する場合

便利な機能

- 出力モードを温度警報に変更した場合、設定温度に対して、吐出熱風温度が任意の一定の範囲を越えた時、警報信号を出力できます。必要に応じてご利用ください。

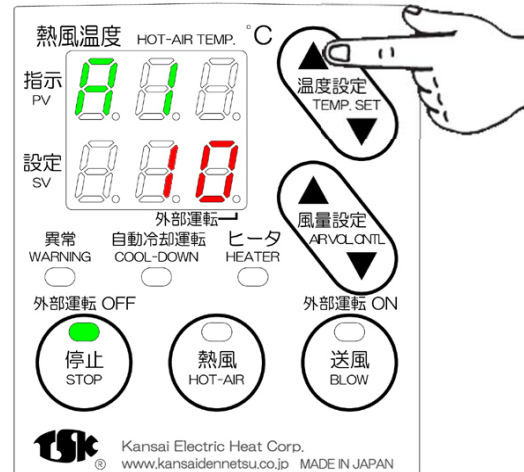
- ① 停止状態にて、熱風スイッチと温度設定アップキーを同時に約3秒間押し続けてください。

熱風温度指示PV部に『A1』、設定SV部に『0』が表示します。



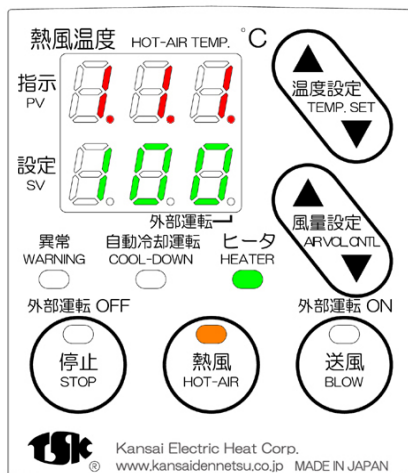
- ② 温度設定アップダウンキーで任意の温度範囲を設定してください。

設定後は熱風スイッチを7回押して、通常停止状態へ戻してください。



- ③ 熱風運転を開始してください。

『10』設定なら設定吐出温度の+10℃以上、-10℃以下で出力端子から温度警報が出力されます(熱風運転開始時の昇温時は除く)。



※温度警報ではポータブルドライヤの運転停止は起こりません。

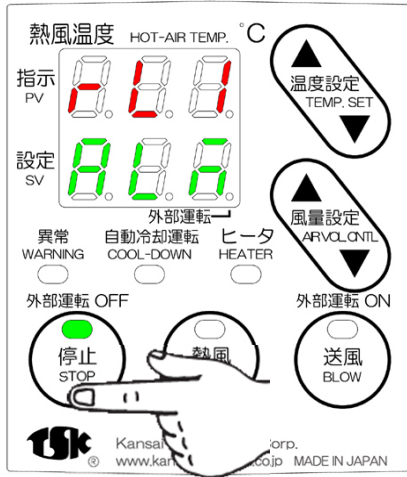
※温度警報設定が0の場合、温度警報出力は無効となります。

※温度警報出力は、サービス端子の出力端子5-7(B接点:警報出力時、開)、または6-7(A接点:警報出力時、閉)から無電圧接点信号(接点容量DC5V 10mA以上、DC30V 1A以下)として出力されます。

- 便利な機能の『温度警報モード変更』、『オートチューニング』をご使用になるためには、各パラメータを変更する前に、まず、パラメータのロックを解除してください。

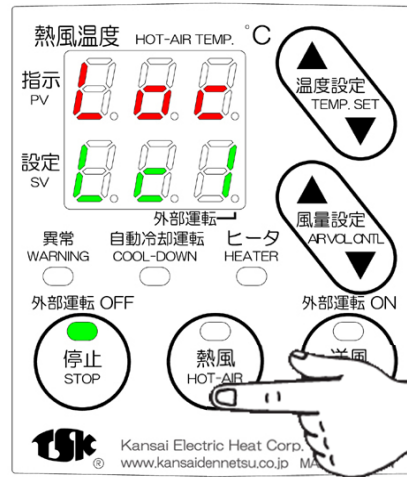
① 停止状態にて停止スイッチを約3秒間押し続けてください。

指示PV部に『RL1』、設定SV部に『ALM』が表示します。



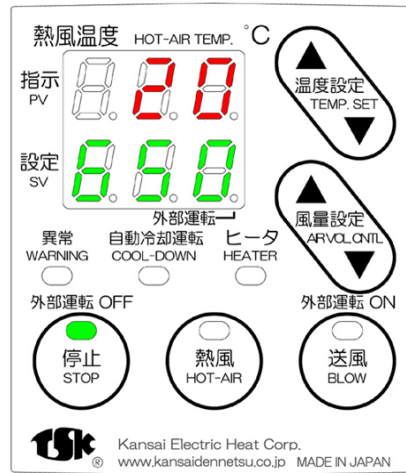
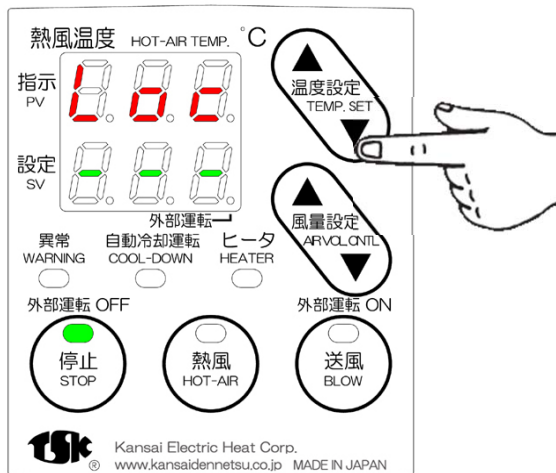
② 熱風スイッチを3回押してください。

指示PV部に『LOC』、設定SV部に『LC1』が表示します。



③ 温度設定ダウンキーで設定SV部を『----』へ変更してください。

④ 変更後、熱風スイッチを1回押して通常停止状態の表示へ戻してください、これで、ロック解除完了です。



※出荷時のロックモードはLC1です。『----』でロック解除、『LC2』で温度設定、及びその他の設定のみロックとなります。温度設定を固定し、誤設定を防止したい場合には『LC2』へ変更し、ご使用いただく方法もあります。


ロック解除後の再ロックは、上記と同操作にて指示PV部の『----』表示を『LC1』へ変更してください。

# 4. 温度警報モード変更

便利な機能

- 温度警報モードは、出荷時、待機付上下限偏差警報モードとなっています。ご使用方法に応じてこの警報モードを変更できます。

### 変更可能警報モード

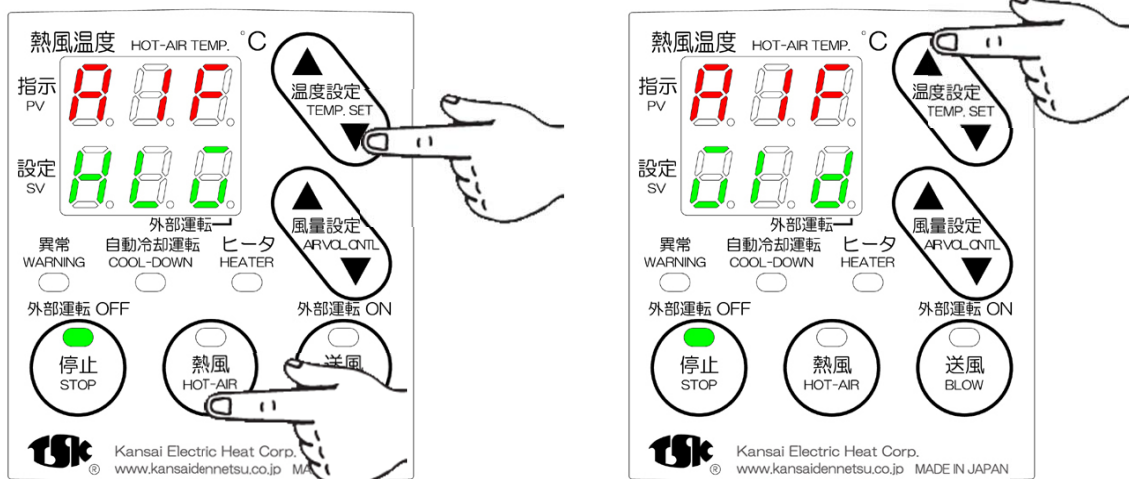
設定値	警報モード	警報動作 : 吐出口温度設定300、温度警報設定100の場合 ※下限偏差警報と待機付下限偏差警報のみ-100設定の場合  印斜線区域内で警報出力がONとなります。					
---	警報動作無し 『---』	警報動作無し					
H	上限偏差警報 『H』	100	200	300	400	500	600
L	下限偏差警報 『L』	100	200	300	400	500	600
HL	上下限偏差警報 『HL』	100	200	300	400	500	600
WID	上下限偏差範囲警報 『WID』	100	200	300	400	500	600
AS	上限絶対値警報 『AS』	100	200	300	400	500	600
RAS	下限絶対値警報 『RAS』	100	200	300	400	500	600
H	待機付上限偏差警報 『HW』	100	200	300	400	500	600
L	待機付下限偏差警報 『LW』	100	200	300	400	500	600
HL	待機付上下限偏差警報 『HLW』	100	200	300	400	500	600

※待機付とは熱風運転開始時、指示値(測定値)が警報範囲内にあっても直ちに警報ONとはならず、一度警報範囲外に出て、再び警報範囲内に入った場合に発生する警報です。下限偏差警報と待機付下限偏差警報のみ、設定値はマイナスとしてください。

- ① ロック解除後、停止状態にて熱風スイッチを押しながら、温度設定のダウンキーを約4秒間押し続けてください。
- ② 温度設定アップダウンキーにて任意の警報モードに変更してください。

指示PV部に『A1F』、設定SV部に『HLW』が表示します。

設定後は熱風スイッチを7回押して、通常運転状態の表示に戻してください。

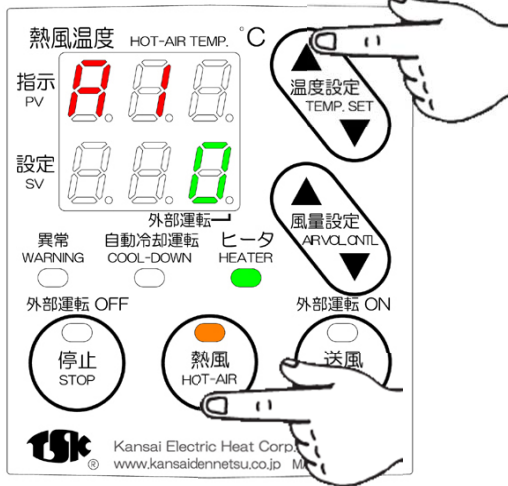


※温度警報変更後は、再度ロックをかけて運転を開始してください。

- 熱風運転時、設定温度に対して指示温度がばらつく場合、オートチューニングを実施することにより、指示温度が安定する場合があります。

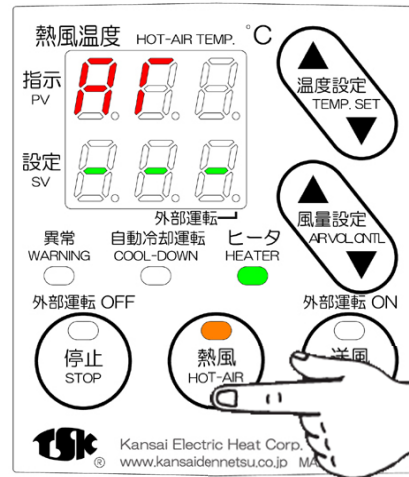
① ロック解除後、熱風運転状態にて熱風スイッチを押しながら、温度設定のアップキーを約4秒間押し続けてください。

指示PV部に『A1』、設定SV部に『0』が表示します。

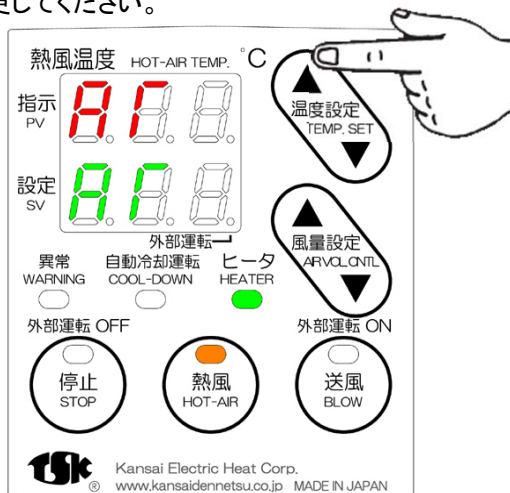


② 熱風スイッチを6回押してください。

指示PV部に『AT』、設定SV部に『---』が表示します。

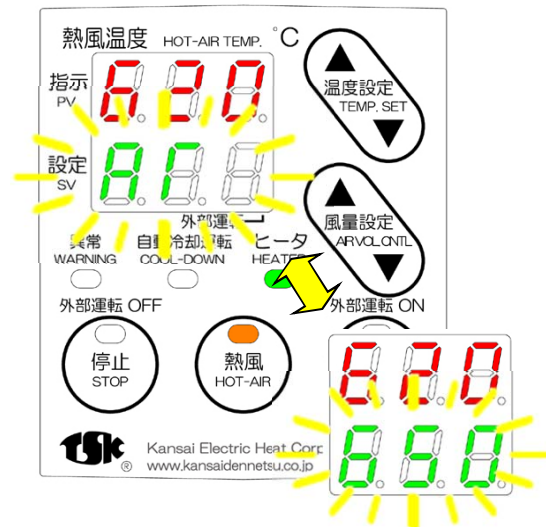


③ 温度設定のアップキーにて『---』を『AT』に変更してください。



④ 設定後、熱風スイッチを1回押して通常運転状態の表示に戻してください。

設定SV部に『AT』と設定温度が交互に点滅します。



設定SV部に『AT』と設定温度が交互に点滅しながら昇温を開始します。オートチューニングが終了後、点滅が終わり通常熱風運転モードとなります。

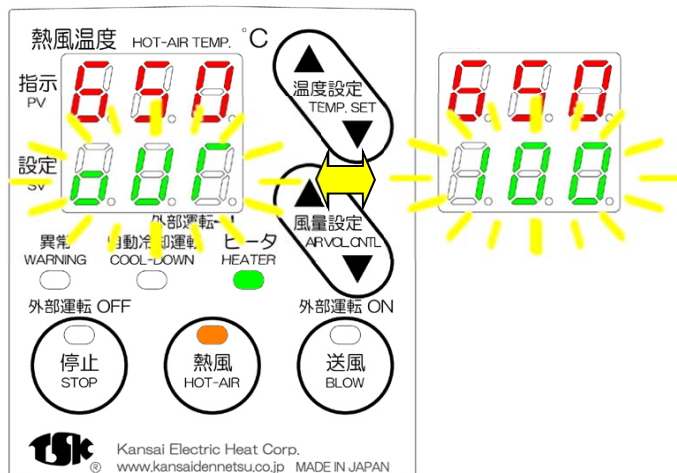
※オートチューニングを実施しても、指示温度がばらつく場合はご連絡ください。また、オートチューニング終了後は、再度ロックをかけて運転してください。



● 熱風運転中に現在のヒータ出力を表示確認することができます。使用熱量のデータ等にご利用ください。

① 熱風運転中に熱風スイッチを約3秒間押し続けてください。

熱風温度の設定SV部に『OUT』と現在のヒータ出力(%)が交互に点滅表示します。



※ロック解除の必要はありません。

※停止、送風、熱風のいずれかのスイッチを1回押すと通常運転状態の表示に戻ります。